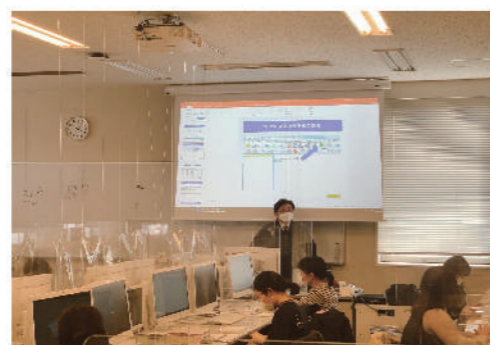


## 社会調査に役立つ統計分析：SPSSワークショップ

2023年3月8日(水)、9日(木)、10日(金) 講師：金明中先生(ニッセイ基礎研究所)



現代女性キャリア研究所では、2012年から2019年まで、毎年学内の学生・教職員を対象として、「社会調査に役立つ統計分析：SPSSワークショップ」を開催していましたが、残念ながら2020年、21年コロナ禍により開催を見送りました。しかし、昨年度からは、参加可能人数を減らしたり、間仕切り(パーティション)を設置するなど、対策を十分に取りながら、メディアセンターのご協力も得て、開催できるようになりました。

講義では、SPSSの基本操作からデータの加工などの基礎知識、統計分析の理解からクロス集計、回帰分析等、基礎編と応用編を計3日にわたって実践的学習が行われました。

参加後のアンケートの満足度も高く、本年度も大変好評なワークショップとなりました。

### RIWAC-DA

(リワック・データ・アーカイブ)

国際婦人年(1975年)以降に実施された、女性とキャリア(生き方)に関する社会調査を多数収集し、その詳細書誌データをデータベース化しネット上で公開しています。

レポートや論文作成、ゼミ報告などに、多様な社会調査をぜひご利用ください。

所蔵件数 1613件 (2023年3月5日現在)

<http://search.riwac.jp/>

### RIWAC資料室のご紹介



資料室にキャリアに関する文献を多数所蔵しています。閲覧をご希望の方は研究所へお問い合わせください。

### お願い

当研究所では、女性とキャリアに関する社会調査のデータアーカイブ(<http://search.riwac.jp/>)を公開しています。女性とキャリアに関する社会調査資料をお持ちの方は、ご協力お願いいたします。

### 『現代女性とキャリア』発行

年に一回、『現代女性とキャリア』を発行しています。論文のほか主催した講演会やシンポジウムの記録、研究所の事業活動に関する報告を収録しています。また、投稿論文も受け付けております。詳細はHPをご参照ください。本書をご希望の方は送料負担のみでお送りいたしますので、メールにて当研究所へお問い合わせください。



# News Letter

Research Institute for Women and Careers

RI\*WAC

日本女子大学

現代女性キャリア研究所

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

TEL 03-5981-3380 FAX 03-5981-3381

E-mail [riwac@fc.jwu.ac.jp](mailto:riwac@fc.jwu.ac.jp) URL <http://riwac.jp/>

男性育休のいま ー育休制度30年を迎えてー

2022年12月3日(土)開催



高橋美恵子  
大阪大学教授



西岡真帆  
清水建設株式会社



豊福美咲  
キリンホールディングス株式会社



武石恵美子  
法政大学教授



12月3日(土)に「男性育休のいまー育休制度30年を迎えて」と題する、シンポジウムを開催いたしました。オンライン参加を含め、100名を超える参加者を迎え、盛大な会となりました。

第一部の講演では、法政大学教授で当研究所特任研究員の武石恵美子先生をお迎えし、「男性育休：求められる背景と課題」というテーマのもと、日本の現在の育休制度の状況についてご講演いただきました。

まず、育児・介護休業法の変遷と主な内容について説明がなされ、これまでの法改正の2つの流れである①女性の就業継続支援＝制度の充実化と②男性の育児への関与を高める＝男性を意識した制度化とのバランスをとることが必要であると強調されました。

今回の2022年改正法では、男性の育児が進まないことへの危機感から制度の利用を望む人が育休を取れるように「産後パパ育休」の創設、育休の分割取得などを制定しています。しかし、男性の育児休業取得は男性の育児参加の一部にすぎず、男性のトータルな子育てへの参加が重要であると論じられました。

次に、大阪大学教授高橋美恵子先生からは「男性育休先進国スウェーデンの実践的な取り組み」というテーマで、スウェーデンの現状とその課題について最新の研究結果からご報告いただきました。

スウェーデンでは、1970年代に共働き社会への転換が図られ、各国に先駆けて男女の育児参加を進める制度や環境の整備が進められてきました。それによって、父親になった男性の約9割は育児休業を取得するようになり、労働時間の男女間の差も相対的に少なくなりました。スウェーデンで男性育休の進む様子が、豊富な統計データと先生が実施

されたインタビュー調査の結果を通じて説明されるとともに、今後の課題として、共働きが進むなか男女が育児休業を均等に分割することの重要性が指摘されました。

第二部では、事例報告として、キリンホールディングス株式会社豊福美咲氏から「より誰もが働きやすい環境をつくる「なりキリン」ママ・パパ研修」などの様子をご紹介いただき、清水建設株式会社西岡真帆氏からは「清水建設における男性育休取得推進への挑戦」というタイトルで社内での男性育休取得推進への道のりを詳細にご報告いただきました。

キリンホールディングス株式会社では、時間制約のある働き方などを模擬体験して業務の両立を図る研修を2019年より全社で展開しています。このユニークな研修は、従業員の働き方と上司のマネジメント力向上など個人と組織に成果を出しているそうです。一方、清水建設株式会社では男性の育休取得を促すために社長が自ら男性従業員にレターを出したことが契機となり、その後は男性版産休(パタニティ休業制度)も導入しています。様々な取り組みにより、男性が多い建設業においても職場の理解が進み意識の醸成が図られています。

さらに、武石恵美子先生をコーディネーターとして3名の登壇者と活発なパネルディスカッションが行なわれました。さらに、フロアからも様々な質問が出され、有益な情報交換の場になりました。

今回のシンポジウムでは、日本とスウェーデンの現状と課題に加え、実際に企業ではどのような課題をどのように解決し、男性育休取得を推進してきたのかを考える貴重な時間となりました。



パネルディスカッション

フランスの女男職業平等政策

講師：神尾 真知子先生 (日本大学法学部特任教授)

フランスにおける労働政策の変遷や、家族政策の現状など、大変充実したお話をいただきました。フランスは過去には日本と類似した状況もありながら、その後変革を行ってきた等、大変示唆に富む内容でした。フロアからの質疑応答では、日本への応用といった点などの議論が交わされ、惜しまれつつの閉会となりました。

2022年7月8日(金)

女性のリカレント教育とコロナ禍が照らし出した新たな状況

講師：矢口 悦子先生 (東洋大学学長)

リカレント教育にみられる3つの型をはじめ、大学におけるリカレント教育像、日本と欧州におけるリカレント教育の歴史などを整理したうえで、欧州で実施されている女性の「再出発」のための多様な教育機会についてお話をいただきました。多くの成人学生が学ぶ英国における大学の様子やリカレント教育をめぐる女性に関する課題など、大変参考となる内容でした。参加者との質疑応答では、様々な議論が展開され、リカレント教育の可能性について視野が広がるものとなりました。

2022年9月22日(木)

日本における女性音楽家の職業生活に関する調査報告

報告者：セビンディク・ベスト氏 (当研究所インターンシップ生)

セビンディク・ベスト氏(オランダ・ライデン大学、10月～約2ヶ月間滞在)が、当研究所インターンシップ期間中に行った「日本における女性音楽家の職業生活に関する調査」(アンケート調査及びインタビュー調査)の結果をもとに、女性音楽家のキャリア形成の状況と直面する課題について報告いただきました。フロアからも質問や感想などが寄せられ、大変有意義な研究会となりました。

2022年12月16日(金)

Families in Israel: Between post-modernity and conservatism

講師：Dr. Dalit Bloch (Tel Aviv University)

ダリット・ブロッシュ先生からは、イスラエルにおける様々な分断の状況やLGBT、女性労働の状況などをご講演いただきました。日本とも類似した課題も見られるなど、大変示唆に富む内容となりました。本学文学部の高梨博子教授に同時通訳をいただき、フロアとの質疑も円滑に行われ、大変有意義な研究会となりました。

2023年3月8日(水)

子どもを持つ就業者のコロナ禍の家事・育児時間と働き方

講師：大谷 碧氏 (リクルートワークス研究所)

リクルートワークス研究所大谷碧氏をお迎えして、研究会を開催いたしました。リクルートワークス研究所で行われた2つのアンケート調査から、コロナ禍の家事や育児への影響やテレワークに関わる分析などについてご講演いただきました。質疑応答の際には活発な意見交換も行われ、意義深い研究会となりました。

2023年3月16日(木)